

昭和54年度

# 熊谷市埋蔵文化財調査報告書

三 尻 №. 80 古 墳

1 9 8 0

熊 谷 市 教 育 委 員 会

## 序文

熊谷市は県北の中心にあって、社会生活の進展にともない、各種の開発行為が行われてきています。上野と新潟を結ぶ上越新幹線は、その建設に際し県内に様々な問題をまきおこしてきましたが、市内では熊谷駅を中心として工事が着々と進められてきております。新幹線は熊谷駅から水田地帯を通り、三カ尻台地に上がり、深谷に通じるわけです。この三カ尻台地上には多くの古代遺跡が存在していることが知られています。

今回発掘調査の対象となった古墳跡は、新幹線工事にともない、その代替地となった土地にあったもので、古い時代に土取りされていたものです。当該地区は、三カ尻古墳群といわれる古墳時代後期に築造された古墳群であり、遺跡の重要性は知られていたものです。

市教育委員会では、関係者と、これを保存べく協議を重ねたのですが、住宅建設を急ぐ事情があって、現状保存は難しく、やむなく記録保存のための発掘調査を早急に実施することになったわけです。

発掘に際しては、県文化財保護課、学生、地元の人達など多くの方々の協力があり、スムーズに進行できましたことに心から感謝の意を表します。

昭和55年 3 月

熊谷市教育委員会

教育長 森 田 芳 一

## 例 言

1. 本書は、埼玉県熊谷市大字三ヵ尻字林3365番地に所在する「三ヵ尻No.80古墳」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、熊谷市教育委員会が主体となり、昭和54年5月12日から5月31日まで実施した。
3. 発掘調査の担当、整理、本書の執筆、編集は、寺社下博が総括し、佐々木公一、松田直則がこれを補佐した。
4. 調査に際し、県文化財保護課小久保徹、駒宮史郎、柿沼幹夫氏の助言、協力があった。
5. 出土遺物の項に示した刷毛目数は、出土した埴輪が全て破片であることから一単位は統一しがたく、また、重複した箇所が多いことから一本の刷毛目の幅も全てにわたってはとらえがたいので一応2cm幅内に存在する数を数ヶ所測定し平均した数で示した。
6. 写真図版に付した番号は、遺物番号一図版番号を示す。
7. 市立図書館の野口館長はじめ、平井隆、鳥場加余子、島野菜穂子、坂田みどり各氏には、発掘調査、整理、報告書刊行まで、数々の便宜を図っていただいた。記して謝意を表します。
8. 発掘調査組織はつぎのとおりである。

|       |                 |       |
|-------|-----------------|-------|
| 調査主体者 | 熊谷市教育委員会教育長     | 森田芳一  |
| 調査員   | 〃 社会教育課主事       | 寺社下博  |
| 調査補助員 | 駒沢大学学生          | 佐々木公一 |
|       | 〃               | 松田直則  |
|       | 法政大学学生          | 江森光芳  |
| 事務局   | 熊谷市教育委員会社会教育課課長 | 山下光男  |
|       | 〃 課長補佐          | 関根貞次  |
|       | 〃 係長            | 養田元二  |
|       | 〃 主事            | 金井葉子  |

# 目 次

序文 熊谷市教育委員会教育長 森田芳一

例言

目次

挿図目次

図版目次

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| I   | はじめに     | 1  |
| II  | 周辺の古墳群   | 2  |
| III | 概況       | 3  |
| IV  | 発掘調査     | 7  |
|     | 1. 礎床    | 7  |
|     | 2. 周掘    | 8  |
|     | 3. 遺物の出土 | 8  |
| V   | 出土遺物     | 8  |
|     | 1. 埴輪    | 8  |
|     | 2. 土師器   | 17 |
|     | 3. 縄文式土器 | 17 |
| VI  | まとめ      | 18 |

## 挿図 目次

1. 地形および周辺の古墳群
2. 三ヶ尻古墳群
3. 「訪蹊録」所収蹊尻全図
4. 「訪蹊録」所収火雨塚
5. 三ヶ尻所在古墳実測図  
「熊谷市三ヶ尻所在古墳発掘調査概要」より
6. No. 80古墳平面実測図
7. 出土埴輪拓影図(1)
8.       "       (2)
9.       "       (3)
10. 出土埴輪実測図
11. 形象埴輪実測図
12. 出土土器実測図  
表一 1

## 図 版 目 次

1. 航空写真 1
2. 航空写真 2
3. 遺跡近景
4. 発掘風景
5. 遺跡全景
6. 古墳中央部
7. 礫床
8. 古墳東側周掘
9.       "       拡大
10. 葎石
11. 古墳東南側周掘
12. 古墳西側周掘
13.       "       底面
14. 古墳西側周掘
15.       "
16. 埴輪出土状況 1
17. 埴輪出土状況 2
18.       "       3
19.       "       4
20. 出土埴輪
21. 出土埴輪・縄文式土器・土師器

## I はじめに

熊谷市における上越新幹線の工事は、現在着々と進行し、三カ尻台地上にも着手しようとしている。この新幹線工事区内に所在する遺跡については、県文化財保護課の方で発掘調査を実施している。

昭和54年5月1日、熊谷市大字三カ尻字林3365番地に住宅建設を予定していた大沢十治氏より古墳跡の取り扱いについて協議を受けた。しかし、現状は、すでに宅地用として削平されて、砂利が運び込まれていた。この住宅建設予定地は、新幹線工事によって立退いた後の、代替地であり、そこには遺跡台帳県ナンバー59-80の円墳跡が所在していた。

市教育委員会では、現状保存を前提として大沢氏および、県文化財保護課等関係者と協議を重ねてきたが、住宅建設およびそれに伴う立ち退きを迫られている状況に対して、如何んともしがたく、記録保存のための発掘調査を実施することにした。また遺跡の名称を「三カ尻No.80古墳」とした。

発掘調査は、昭和54年5月12日から5月31日までの20日間駒沢大学、法政大学の学生および地元の人々の参加を得て、実施した。発掘地は、先に述べたとおりの状態であり、そのうえ、庭の部分には庭木が植えられていて、この部分は発掘が不可能であった。

調査中、県文化財保護課、小久保徹氏には、現場において、資材置場および事務所をお世話いただいたり、指導、助言を得た。また、駒宮史郎氏、柿沼幹夫氏には適切な助言を得た。ここに記して謝意を表します。

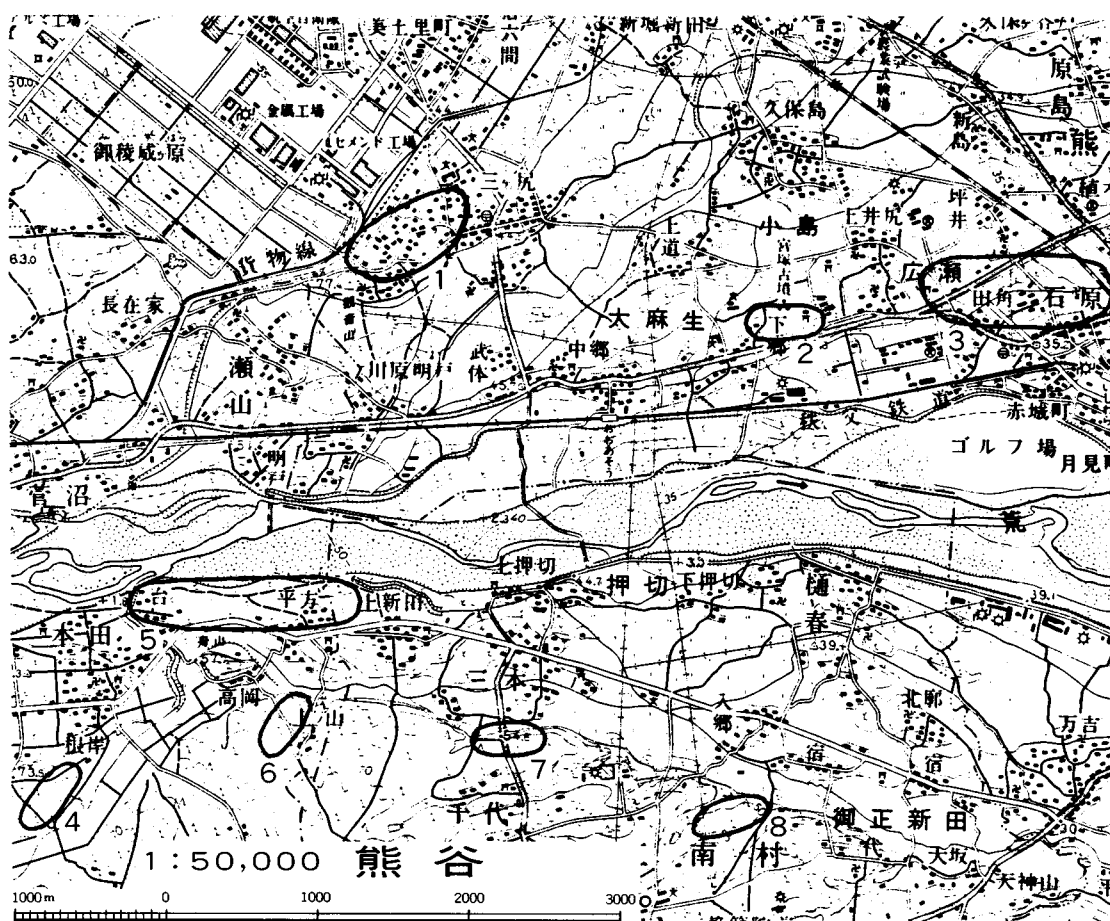
## II 周辺の古墳群

三カ尻古墳群の所在する三カ尻台地は、荒川中流域に形成された高位扇状地で、洪積扇状地であるが、古墳群の東部はいわゆる「熊谷扇状地」といわれる低位扇状地で、大半が沖積扇状地である。この三カ尻台地上には古墳群の他、縄文時代中期～後期、弥生時代中期～後期、古墳時代後期の遺跡が数多く存在している。

秩父山地に源を発した荒川は、屈曲しながら流下し、寄居町で流速を弱め、扇状地をつくり始め、両岸に形成された段丘上には多くの古墳群が存在する。荒川左岸（北岸）を上流からみると、寄居町から花園村にかけて存在する小前田古墳群、寄居町の黒田古墳群、川本町の月見古墳群、三カ尻古墳群(1)と続く。さらに東部の沖積扇状地上には、広瀬古墳群(2)石原古墳群(3)が存在する。(Fig.1)

荒川右岸（南岸）の段丘上には川本町の塚原古墳群(4)川本町から江南村にかけて存在する鹿島古墳群(5)がある比企丘陵の北端には、上大塚古墳群、平方前古墳群(6)千代古墳群(7)静簡院古墳群(8)吉岡古墳群が存在する。

小前田古墳群は、現在ではほとんど潰滅しているが、100余基の円墳群であった。石室は砂岩礫と片岩質の石を利用し、若干の胴張りをもつ横穴式石室であり、箱式石棺をもつものもある。出土遺



第1図 地形および周辺の古墳群

物は、直刀、鉄鏃、玉類、須恵器、馬具等がある。

黒田古墳群は、30余基の円墳および、前方後円墳が存在した。自然礫を利用した横穴式石室をもち、出土した形象埴輪に特色がある。

月見古墳群は現存しないが、河原石を利用した横穴式石室で、埴輪の出土があった。

広瀬古墳群は上円下方墳—宮塚古墳—を含む9基前後が確認されている。宮塚古墳は、下方墳16m平方、上円は高さ3mで葺石がある。また、石室内から蕨手刀を出土した古墳もあり、終末期的な様相を示す。

石原古墳群は48塚をして熊谷市坪井、石原を中心に多くの円墳が存在した。石室の壁は河原石を利用し、天井には青石の平石を用いた。出土遺物は直刀、金環、勾玉、管玉、埴輪、須恵器、土師器が知られている。

塚原古墳群は、河原石を利用した横穴式石室を用いた円墳群である。

鹿島古墳群は、83基の円墳が確認されている。周堀は一周するものと、馬蹄形を成すものがあり、河原石と青石を使用した胴張りの横穴式石室をもち、刀子、直刀、鉄鏃、金環、等武器類が多い。また鍬子なども出土している。

吉岡古墳群（瀬戸山古墳群）は前方後円墳伊勢山古墳を中心に14基知られている。伊勢山古墳は凝灰岩の切石を利用した片袖式横穴石室をもち、大刀、刀子、鉄製のくつわ、金環、埴輪が出土している。円墳は截石を用いた横穴式石室で、胴張りのものとそうでないものがある。いずれも埴輪はもたない。古墳群としては終末期的な様相を示す。

### Ⅲ 概 況

高崎線籠原駅の南西約3kmに熊谷市内唯一の独立丘陵観音山がある。観音山は、三ヶ尻台地の先端部に位置し、その南に、東流する荒川を望む。

観音山の北側150mに本墳が所在し、行政区画は、熊谷市大字三カ尻字林3365番地である。

第 2 図

三ヶ尻古墳群





本墳は、いわゆる三カ尻古墳群に属している。古墳群（Fig.2）は、三カ尻台地の先端部、観音山の北東部に群在している。台地上に北東から南西にかけて秩父セメント貨物線があり、一見、古墳群の範囲を限定しているようであるが、秩父セメント熊谷工場、旧陸軍熊谷飛行場地内にも広がっていた。現在残存しているのは22基で、ほとんど円墳であるが、前方後円墳2基を含む。

1. 二子山古墳、前方後円墳 59-65
2. 円墳 59-66
3. 円墳 59-67

昭和54年県文化財保護課調査中

4. 御経塚古墳 円墳 59-68
5. 円墳 59-69
6. 稲荷塚古墳 円墳 59-70
7. 円墳 59-71
8. 円墳 59-72
9. 円墳 59-73
10. 円墳 59-74
11. 円墳 59-75
12. 円墳 59-76
13. 円墳 59-77
14. 浅間様古墳 円墳 59-78
15. 円墳 59-79
16. 円墳 59-80
17. 円墳 59-81
18. 円墳 59-82
19. 円墳 59-83
20. 円墳 59-84
21. 円墳 59-85
22. 運派塚古墳 前方後円墳(?) 59-86

本墳はNo.16（県No.59-80）である。

三カ尻古墳群は、古くにこの地を訪れた渡辺華山によって記録されている。その著書「訪臾録」は、三カ尻村（臾尻村）について書かれた地誌であるが、その中でも火雨塚についての記述が興味深い。（Fig.3）以下にその文を引用してみる。

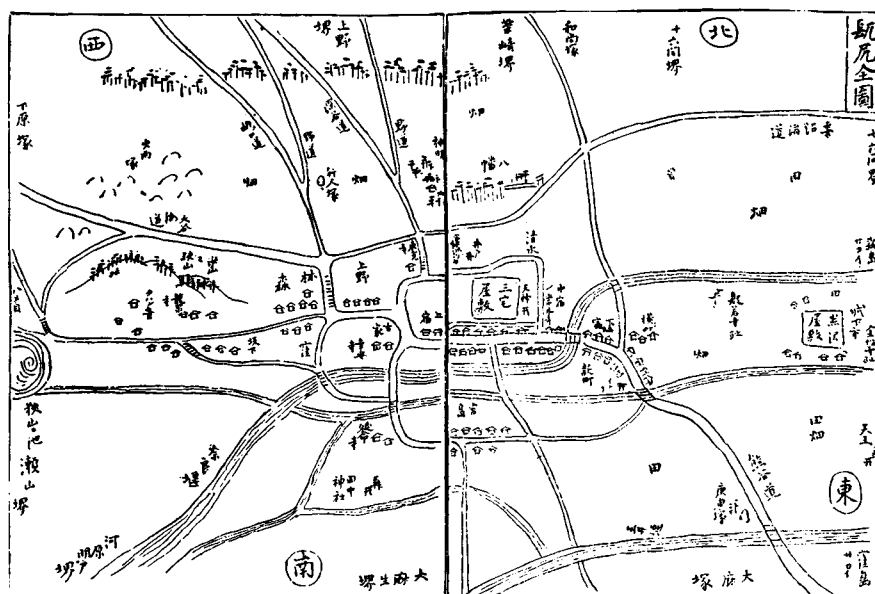
火雨塚

森ノ西ハ貫メニアリ此地皆自田ニシテ其廣キ 八九町モアルヘシ

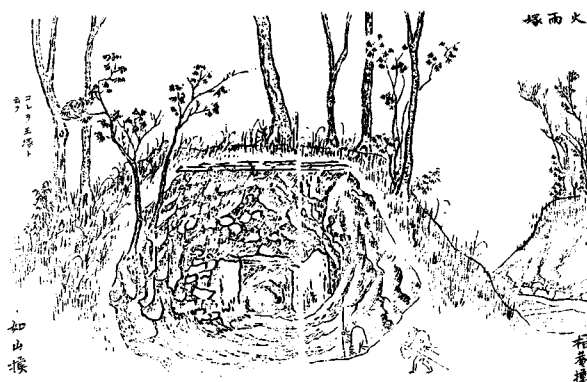
故冢幾十ナルヲ不知

世ニ所謂土饅頭ナルモノ上樹竹茂密望ミ獨山ノ如シ

内ニ餽函一横刀一鐵鍬数百ヲ蔵ム

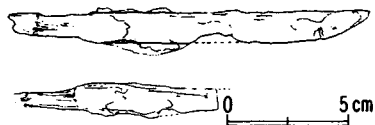
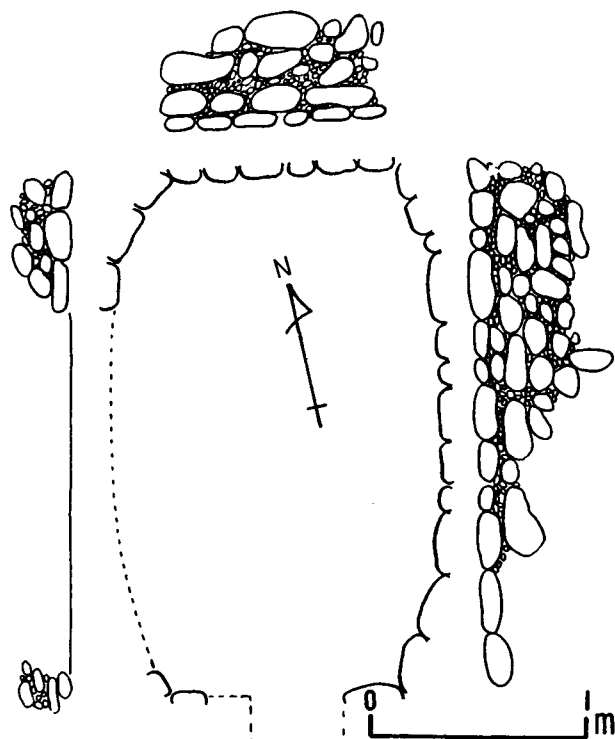
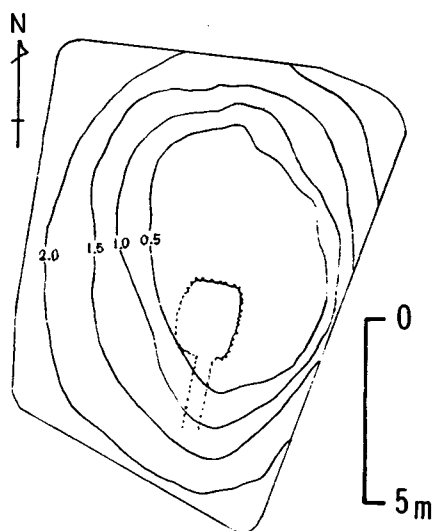


土人云太古火ノ雨降シ時皆コノ土室ニ逃避セシ故ニコレヲ火ノ雨塚ト呼フトソ



第 4 図

「訪貳録」所収火雨塚



— 後略 —

絵図 (Fig. 4) をあわせみると、火雨塚中最大の王塚は玄門、天井石を秩父の青石で設置し、壁面を青石や人頭大の礫でつくり、しっくい塗った玄室をもつ古墳であったと思われる。出土遺物は、鎧、刀子、桜花鉄鏃等の武器類がみられる。

古墳群中、すでに発掘調査されたのはNo. 不明で、昭和35年、小沢国平氏によって実施された (Fig. 5)。その結果、羨道部および、石室の西側、石室の上部がすでに破壊されてはいたが、主軸を  $N-12^{\circ}-E$  にとり、胴張りを有する横穴式石室であることが判明した。

石室内からの出土遺物は、棺床の敷石の間から刀子2口と、琥珀管玉片が発見された。河原石を積み、礫をつめ、胴張りを有する石室は、この古墳群の一般的なあり方を示す。

## 第 5 図

三ヶ尻所在古墳実測図

「熊谷市三ヶ尻所在古墳発掘調査概要」より

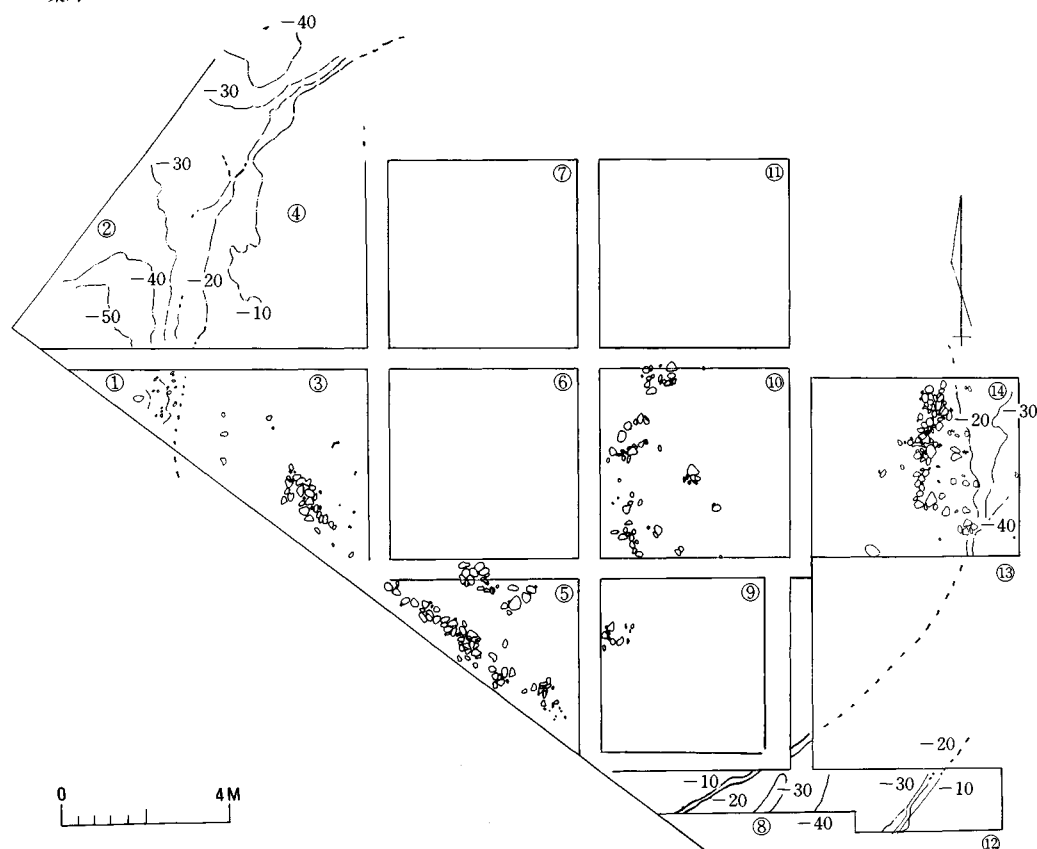
## Ⅳ 発掘調査

三カ尻No.80古墳の発掘調査区域は、25×15mの範囲で、すでに宅地として造平され、2方を道路に、他の2方をブロック塀に囲まれた状況であった。よって墳丘（宅地化前においても地脈れ状であった）は皆無であった。

調査方法はトレンチとグリッドを併用する方法をとった。全体をジョレンによって、覆われた土を排除し平坦にしたところ、発掘区の中心に礫の列を認めた。また、発掘区周辺部と中央部の土層が異なる点も確認された。しかし土層が安定せずいづれが基盤となり、覆土となるかはにわかに決しがたく、主軸方位を磁北とした5m区画のグリッドを設定し、その東端、南端にトレンチを設ける方法をとった。

調査の結果、縄文式土器包含層を基盤として礫床がわずかに残存した、直径18mの円墳である。9区では礫下部に人為的に投入された土層も確認された。しかしあまりに局部的であることから、投入された年代を判定しがたい点もある。周堀も一部が確認されたが、北辺はすべて削平され、南辺は区域外であった。

### 1. 礫床



第6図 No.80古墳平面実測図

11グリッドにおいて、ほぼ南北方向に10～30cm程度の河原石が列を成す。古墳中央寄りに大き目の礫が、外側に小さ目の礫が配置されている。小礫の東端から東側周堀の傾斜変換線までは6.3mを測る。礫列の長さは、5.8mに及ぶが、大礫の存在する範囲は、3.2mである。おそらく大礫の範囲に主体部が存在したものであろう。

## 2. 周堀

周堀は、北辺と南辺を確認できず、一周するのか陸橋部を有するかの判断は不可能であるが、平均して、幅3.8m、深さ40cmを計る。よって、周堀を含めた古墳の範囲は、直径25～26mに及ぶと考えられる。周堀の断面形は滑らかなU字形を呈する。内面の傾斜は、外面のそれに比して緩やかである。周堀の底面は、礫層であり、水を湛える堀の役割を果たすものではなく、墓域を区画する役割であったと容易に察することができる。周堀内側には葺石のみられる部分がある。14グリッドでは、あまり破壊を受けていない状態で確認されている。また3グリッドでは疎らな状態で確認されている。

## 3. 遺物の出土状況

出土遺物は、殆ど埴輪で、土師器が1片のみみられる。埴輪は、円筒埴輪と形象埴輪が出土している。前者は周溝内より破片で、後者は5、9、12、14グリッドに限られる。この位置は、主体部の南面で、さらに細かくみると、人物埴輪とそれに類するものは東（12、14グリッド）、馬形埴輪に付属するものは西（5、9グリッド）と区別された。しかし、総点数があまりに僅かであるので、一概に本墳出土の形象埴輪全体について、その様な設置の区別があったかどうか速断するものではない。

# V 出土遺物

## 1. 埴輪

三カ尻No80古墳から出土した埴輪は、円筒埴輪と形象埴輪である。全て破片であり、設置された状態のものは無い。総破片数227点を観察すると、胎土、成形、凸帯、円孔等について差異が認められる。代表例31点についてみると、1～12の埴輪は焼成が悪く表面がザラつく。13～31の埴輪は焼成が良く、ザラつくことがない。1～31全てにわたって、外面には縦の刷毛目が施されている。内側にみられる撫では、例外なく、獣皮あるいは指頭のような柔かいもので施されており、縦あるいは斜に指の幅（1～1.5cm）の窪みをもつものが多い。

胎土は、粗製のもの（1）と精製のもの（3）とそれらの中間であるもの（2）の3種類に区別される。また、各々に軽石粒を含むもの（A）と含まないもの（B）を加味すると6種類に細分される。

1-A。1。2。3。4。5。7。8。

1-B。6。9。11。12。16。18。19。21。22。

2-A。25。

2-B・10. 13. 15. 20. 23. 24. 30。

3-A・26. 27. 28. 29. 31。

3-B・14. 17。

色調は淡黄色(1)、褐色がかった淡黄色(2)黒味を滞びた赤褐色(3)暗茶褐色(4)に区分される。(2)(3)は明暗があり、各々細分される。

(1)-4

(2)-①(肌色に近い)・11. 12。

(2)-②(赤味を滞る)・1. 2. 3. 5。

(3)-①(明るい)・18. 22。

(3)-②(赤褐色)・6. 7. 8. 9. 10. 21。

(3)-③(若干暗い)・16. 17. 19。

(3)-④(やや黒味を滞びる)・13. 14. 20. 30。

(3)-⑤(黒味を滞る)・15. 23. 24. 25。

(4)-26. 27. 28. 29. 31。

1-A類は、淡黄色系統でも赤褐色に近いものと、赤褐色のものがある。1-B類は赤褐色のものと、若干暗い赤褐色のものがある。このように1類では、軽石粒を含んだ群が一般に明るい色調をもつ。4は1類にあって独特の色調をもつ。2類は全体に暗い赤褐色系統の色調をもつ。

外面の刷毛目について(例言5)は、6、7本という間隔の広いものから20本以上という密なものまでがある。最も普遍的なものは8、9本のものであり、11~13本までがこれに次ぐ。

6・7本-6. 7. 8. 13

8・9本-1. 2. 3. 9. 11. 12. 14. 15. 16. 18. 19. 21. 22. 27. 30。

11~13本-4. 10. 17. 20. 23. 24. 25. 26。

16・17本-5. 29。

20・22本-28. 31。

軽石粒を含有するものは、刷毛目数がバラエティーに富むが、含有しないものは刷毛目数が8~13本というように、多くも少くもない中間的な刷毛目数を示す。この中でも胎土の粗いものは8、9本、中間もしくは精製のものは11~13本に中心をおくというような差がみられる。軽石粒を含むものでは、特に、3-A類に特色がある。3-A類は全て暗茶褐色を示すが、28. 29. 31は人物埴輪とみられ刷毛目数が各々、22. 17. 20本と本古墳出土埴輪の中で最も多い一群である。26. 27は中間的な刷毛目数であるが、白色顔料が施されており、やはり形象埴輪である。このように本古墳出土埴輪のうち刷毛目数の多い一群は人物埴輪に限られている。精製であり、軽石粒を含む一群(3-A類)は人物埴輪を含めた形象埴輪の一群であるといえる。

凸帯をもつものは、8. 9. 10. 14. 15. 20. 22. 30がある。このうち8は不明である。断面三角形を成すものは9. 15. 20. 22であり、断面台形を成すものは10. 14. 30である。しかし純然たる三角形は9. 22だけであり、同じく台形は10. 30である。(台形はその中央が窪み、これも純然

たる台形を成しているとはいいがたい。) 14. 15. 20. 24はいずれも台形の一角がくずれ、三角形の一辺が脹らんだ形を示している。14はその脹らみが稜を成しているので断面台形の類に入れた。

このように本墳出土埴輪に接着された凸帯は、台形の崩れた形を示すものと、三角形を示すものがあるといえる。なお、断面三角形のものは1-B類のみに限られ、2-B、3-B類では、台形の崩れたものがみられる。しかし軽石粒を含む類-A類で凸帯のあるものがみられず、比較対照することができず、全体的なものでないかもしれない。

円孔のみられるものは、10. 15. 20. 22. 26. 30である。26は鋭利な刃物で切り取られたままであるが、他はいずれも柔かい、指頭などで整形しており、内・外面に胎土の盛上りをみる。形の定かなものは一つもないが、推察すると縦長の楕円形を示すものと思われる。

以下に各々の遺物について記述してみる。

1. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。また、若干の軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目が浅く、内面は縦の撫でが施されている。赤味がかった淡黄色を呈する。刷毛目数9。

2. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。また、わずかに軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目が深く、内面は縦の撫でが施されている。やや赤味がかった淡黄色を呈する。刷毛目数9。

3. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。また、わずかに軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目が浅く、内面は縦の撫でが施されている、赤味がかった淡黄色を呈する。刷毛目数9。

4. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。また、若干の軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は斜に撫でが施されている。淡黄色を呈する。刷毛目数13。

5. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。また、ごく僅かの軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。赤味がかった淡黄色を呈する。刷毛目数16。

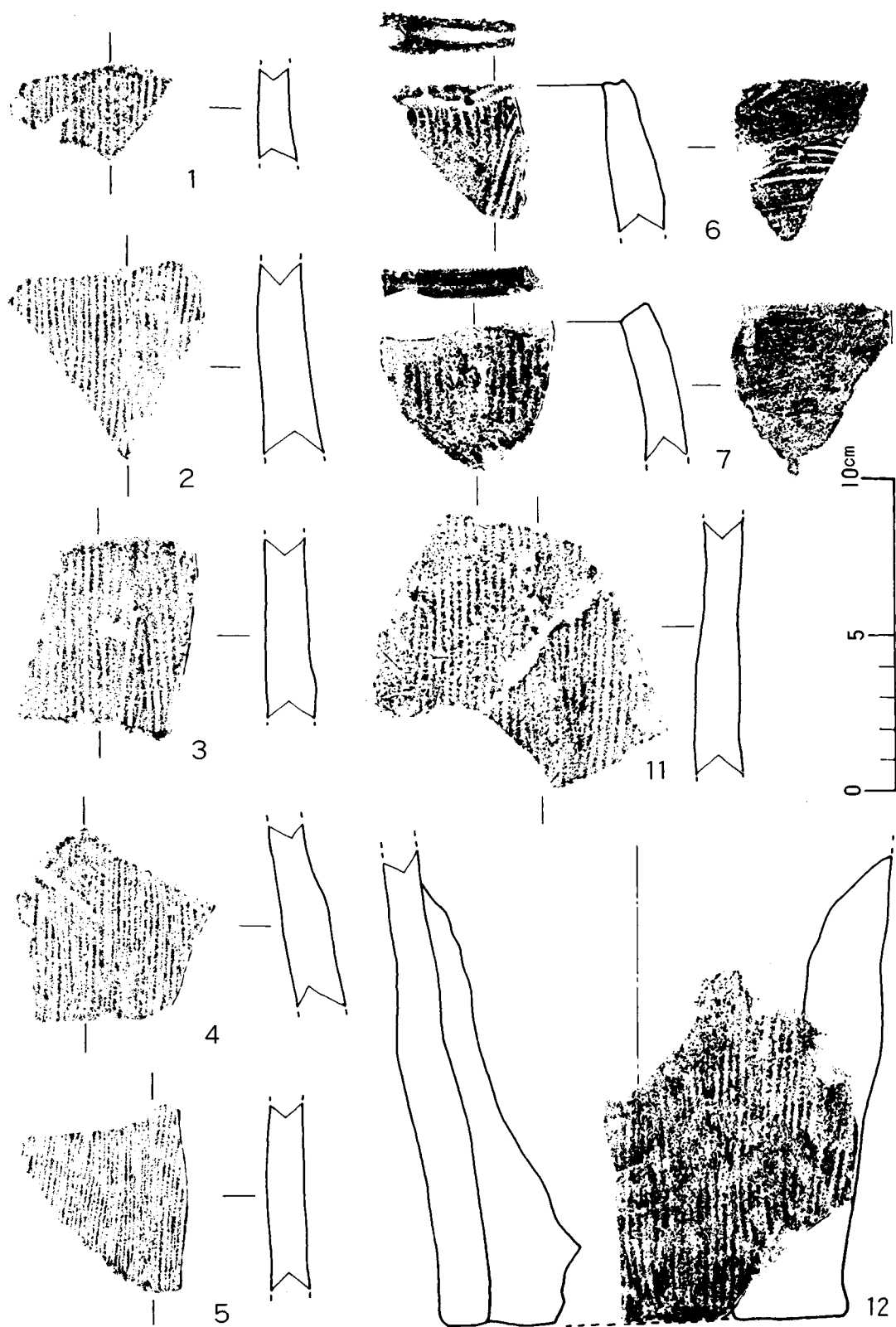
6. 口縁部である。胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。口唇部は平坦でない。内面から胎土を被せた結果によるもので、断面U字形を示す。外面は、縦・斜の刷毛目、内面は横の刷毛目が施されているが、口辺部はさらに横の撫でが施されている。口唇－外面－内面の順で整形したように思われる。赤褐色を呈する。刷毛目数6。

7. 口縁部である。胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。また、若干の軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目が施されている。口唇から内面にかけては、横の撫でが施され、口唇部は平坦である。赤褐色を呈する。刷毛目数6。

8. 胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。また、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。凸帯は剥落しているが、丁寧に撫で付けてある。赤褐色を呈する。刷毛目数7。

9. 胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。また、軽石粒をごく僅か含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。凸帯は断面三角形を呈し、上、下面とも丁寧に撫で付けてある。赤褐色を呈する。刷毛目数8。

10. 胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。凸帯は断面やや窪みをもつ台形を成し、上・下面とも何ら手を施さず接着されている。円孔は、雑



第 7 图 出土埴輪投影图 (1)



に穿たれている。赤褐色を呈する。刷毛目数13。

11. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。肌色に近い淡黄色を呈する。刷毛目数8。

12. 基部である。胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。底径12cmで、下から5cmまでの幅で基部が作られている。その上部には幅3cm前後の粘土帯が巻き上げられていく。底面はほぼ平らであり、何らの痕跡もない。残高14.5cmであるが、下段の凸帯はみられない。肌色に近い淡黄色を呈する。刷毛目数9。

13. 胎土はやや細かいが、多量の酸化物を含む。外面は縦、内面は斜の刷毛目を施している。内・外面共同一工具と思われる。やや黒味がかった赤褐色を呈する。刷毛目数6。

14. 胎土は細かいが、極まれに2mm大の礫を含む。また、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。凸帯は、下方が低くなった台形を成す。上・下面共丁寧な撫でで接着されている。やや黒味がかった赤褐色を呈する。刷毛目数8。

15. 胎土はやや粗く、2～5mm大の礫を多く含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。凸帯は断面三角形を成しているが、上面に脹らみがあり、台形がくずされた感を呈する。下面は丁寧に撫で付けられている。円孔は、柔らかい道具で整形したらしく、明確な線を示さない。また、内面に胎土の盛り上りをみる。黒味を滞びた赤褐色を呈する。刷毛目数8。

16. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は斜の刷毛目の後、縦の撫でを施している。若干黒味がかった赤褐色を呈する。刷毛目数8。

17. 胎土は細かいが、極まれに3mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は横の撫でを施している。外面は若干黒味がかった赤褐色を呈するが、中間および内面は淡黄色を呈する。刷毛目数12。

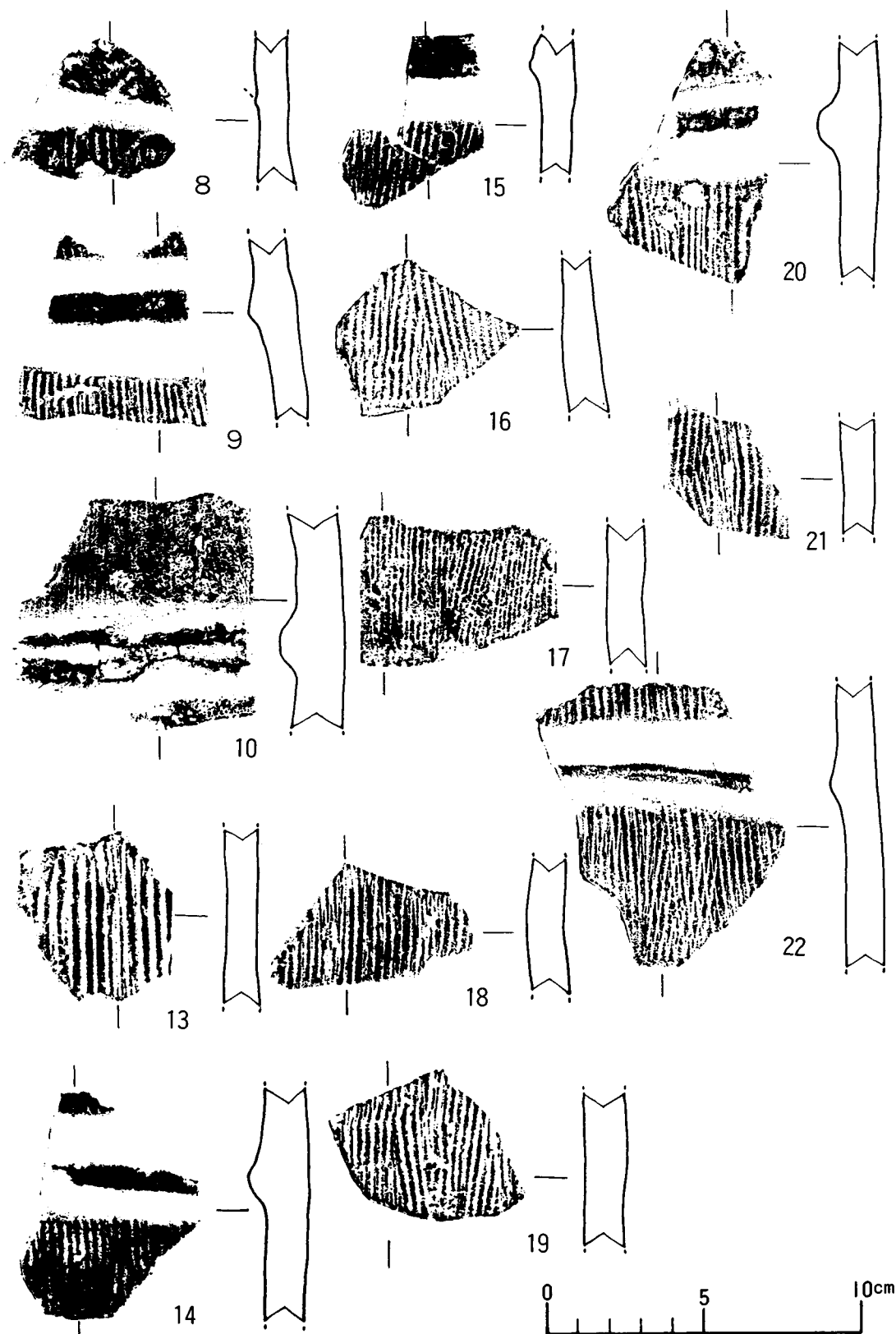
18. 胎土は粗く、5mm大の礫を含む。外面は縦に刷毛目を重ねて、内面は縦の撫でを施している。明るい赤褐色を呈する。刷毛数8。

19. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。若干黒味がかった赤褐色を呈する。刷毛目数8。

20. 胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦横の撫でが施されている。凸帯は断面三角形であるが、上面に若干の脹らみをもつ。上面は横の撫でで接着しているが、下面はそのままである。また、縦の刷毛目を施した後凸帯を接着していることが明らかである。円孔は、指頭によって整えられ、内面に胎土の盛り上りをみる。やや黒味がかった赤褐色を呈する。刷毛目数11。

21. 胎土は粗く、5mm大の礫をまれに含む。外面は縦の刷毛目、内面は斜の撫でが施されている。赤褐色を呈する。刷毛目数8。

22. 胎土は粗く、2～5mm大の礫を含む。外面は縦の刷毛目、内面は、上位で横の刷毛目、その他では刷毛目の後、縦の撫でが施されている。凸帯は断面三角形を成し、上下面共丁寧に撫で付けられている。円孔は指頭によって整形されており、内面に胎土の盛り上りがみられる。明るい赤褐色を呈する。刷毛目数8。



第 8 図 出土埴輪投影図 (2)

23. 胎土はやや細かく、2mm大の礫をごくまれに含む。また、軽石粒を少量含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦横の撫でが施されている。黒味を滞びた赤褐色を呈する。刷毛目数12。

24. 胎土はやや細かく、2mm大の礫をごくまれに含む。また軽石粒を少量含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の刷毛目が、異なる工具で施されている。黒味を滞びた赤褐色を呈する。刷目数12。

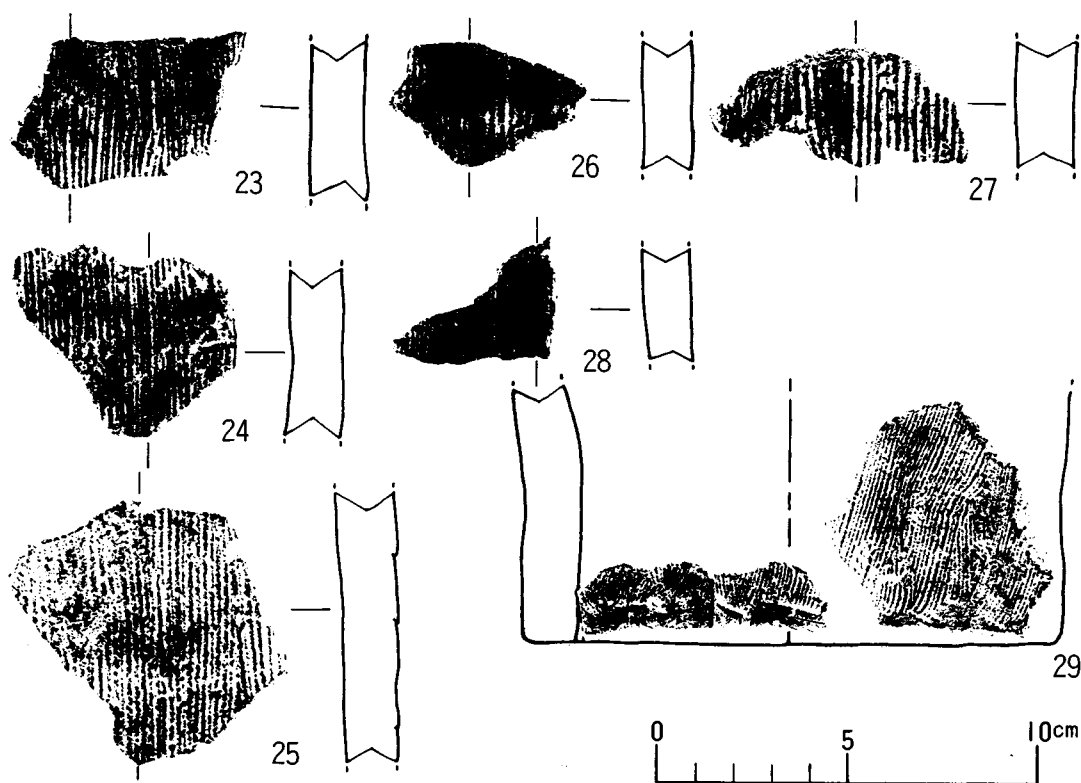
25. 胎土はやや細かく、3mm大の礫をまれに含む。また軽石粒を少量含む。外面は、縦の刷毛目を施しているが、内面は巻上げ痕をそのまま残している。黒味を滞びた赤褐色を呈する。刷毛目数12。

26. 胎土は細かく、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦および斜の刷毛目が施されている。円孔は、鋭利な工具によって穿たれている。暗茶褐色を呈する。刷毛目数12。

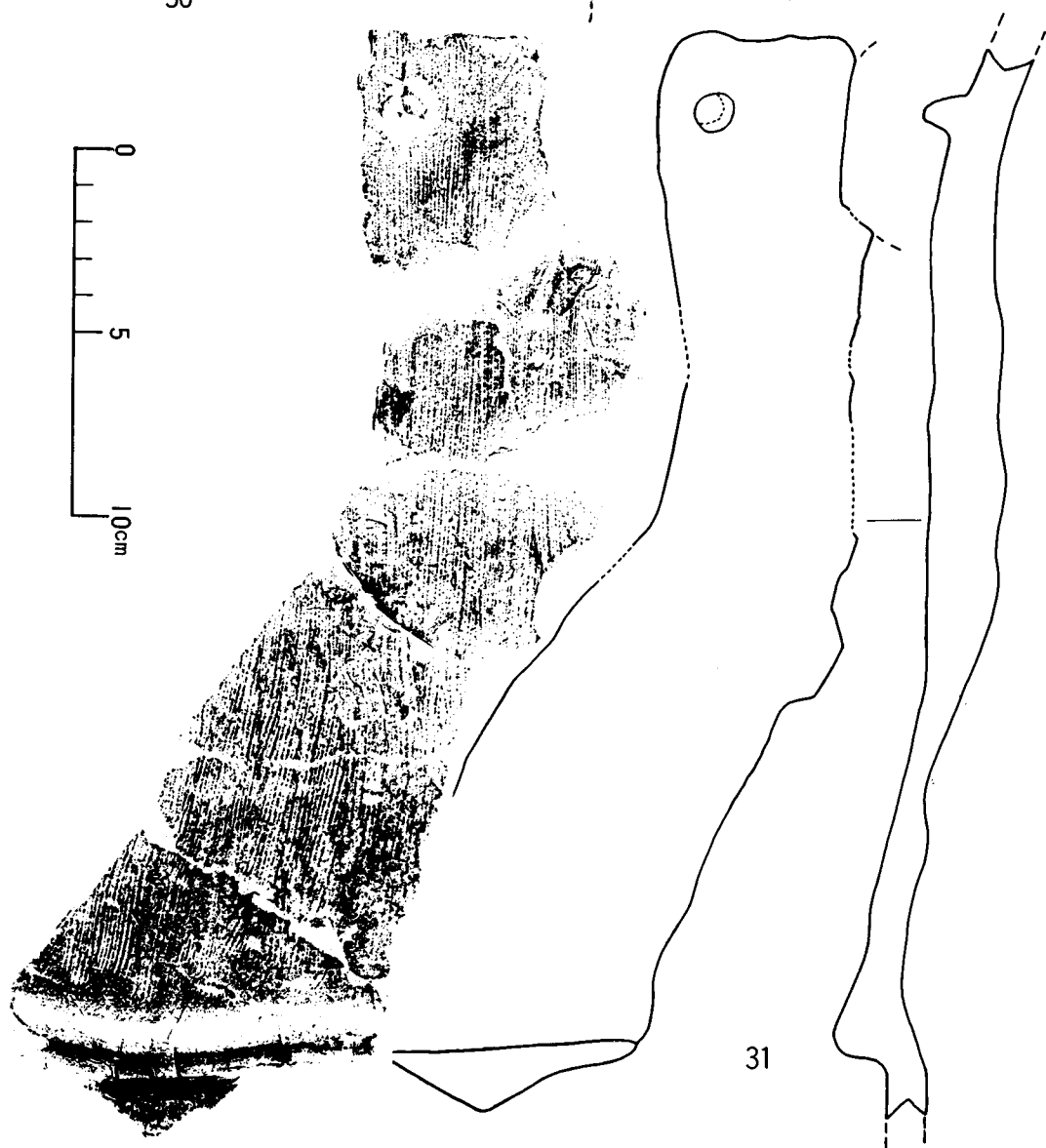
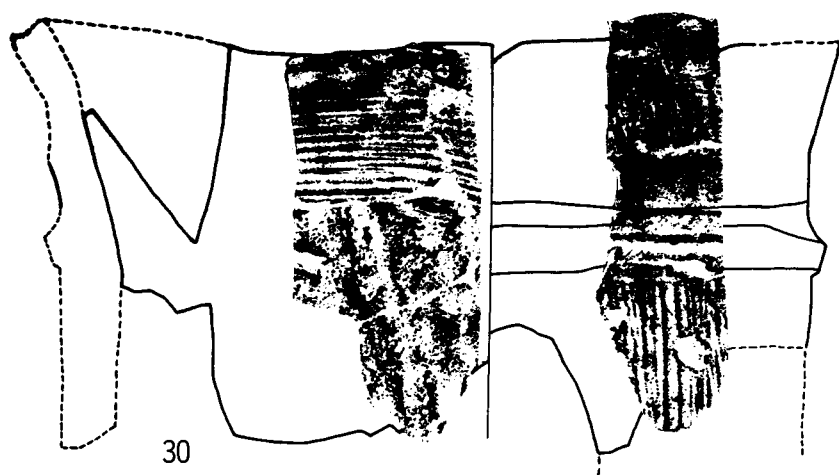
27. 胎土は細かく、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は斜の刷毛目および縦の撫でが施されている。また、外面には白色顔料が施されている。茶褐色を呈する。刷毛目数8。

28. 胎土は細かく、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、内面は縦の撫でが施されている。また、外面には白色顔料が施されている。暗茶褐色を呈する。刷毛目数22。

29. 基部である。胎土は細かく、軽石粒を含む。外面は縦の刷毛目、縦の撫でが施されている。推定底径19.2cmを計る。底面は水平で何の痕跡も無い。また、いわゆる基部という造りはもっていない。暗茶褐色を呈する。刷毛目数17。

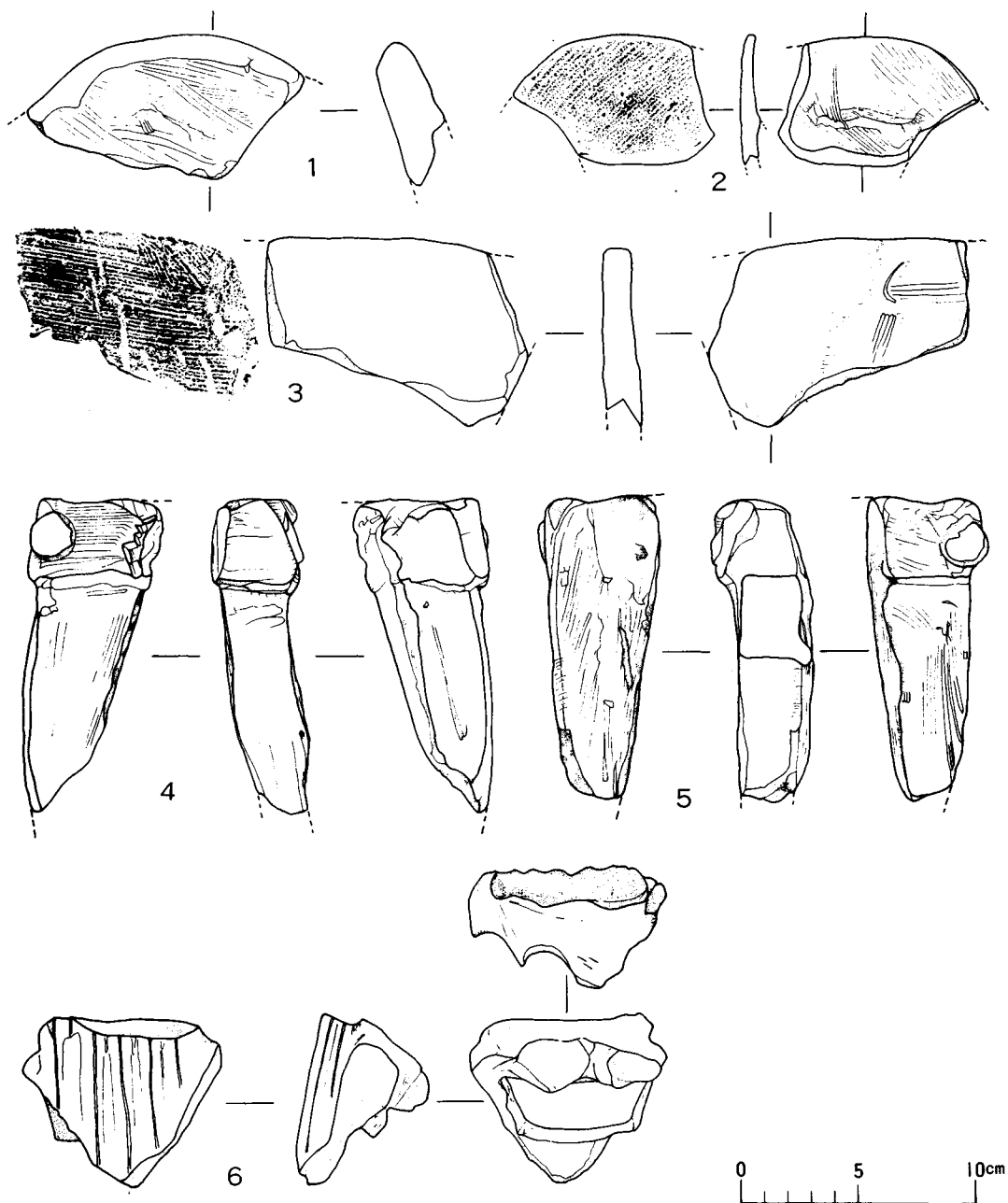


第9図 出土埴輪投影図 (3)



第10図 出土埴輪実測図

30. 口縁部である胎土はやや粗く、2mm大の礫を含む。口径21.8cmを計る。最上段の凸帯が残存している。下からこの凸帯まで外傾し、凸帯より上で外反する形を成す。口唇部は断面U字形を成す。外面は縦の刷毛目、その後口唇部だけは横の撫で、内面は凸帯より上部に横の刷毛目、下部に縦の撫でが施されている。凸帯は断面が中央部の窪んだ台形を成す。また上縁が下縁よりつき出た形を成す。上下面とも丁寧に撫でつけられている。口唇より凸帯中央まで5.8cm計る。円孔は一对設けられており、共に指頭による整形が施され、内・外面面に胎土の盛り上りをみる。縦に長い隋円



第11図 形象埴輪実測図

形を呈するようである。孔横径は4.5cmを計る。

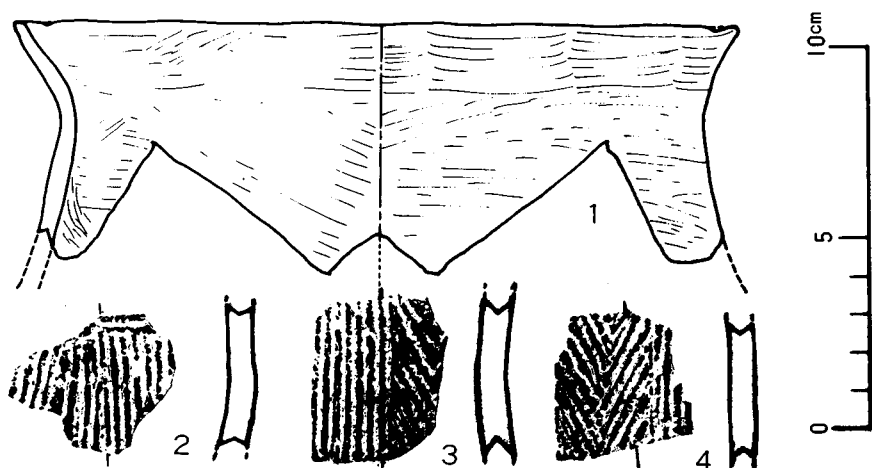
31. 人物埴輪の胴部である。胎土は細かく、軽石粒を含む。女性埴輪で、胸から腰さらに基部の一部までが残存する。現高29.5cm。左乳房の左、要するに脇の部分に、丸く接合面がみられることから、おそらく腕が接合されていたと思われる。乳房から裾まで25cmを計る。外面は縦の刷毛目で、人物部分全面に白色顔料を施している。内面は縦および、斜の撫でが施されている。暗茶褐色を呈する。刷毛目数20。

## 2. 土師器 (Fig.12-1)

甕形土器の口縁部である。推定口径19cmを計る。口縁部は緩やかに外反し、器内は横方向の撫でによって良く整えられ、口唇部は丸味をもつ、胴部はあまり脹らみをもたず、口縁径よりも若干大きくなる程度であろう。胎土は粗く小礫を含む。黒づんだ赤褐色を呈す。

## 3. 縄文式土器 (Fig.12-2~4)

櫛状工具によって深い条痕が、縦および、山形に施されている。胎土は粗く、2mm大の礫を含む。厚さ8mm前後であり、良く焼きしめられている。



第12図 出土土器実測図

## VI まとめ

以上、三カ尻No.80古墳の発掘調査結果を概観したが、残存状態がきわめて悪く、礫床の最下面および、周堀の一部が確認され、墳丘直径18m、周堀を含めた古墳の範囲は25~26mを測る円墳であることが判明したにすぎず、細部は不明である。しかし、周辺の古墳との類似点が多いこと、あるいは排除されていた礫などから、恐らく、南に向けて開口し、河原石を利用した横穴式石室が存在したとし得るであろう。

出土した形象埴輪に人物と、恐らく馬形に付属する埴輪があり、それらの配置されていた場所が

出土埴輪一覽表

| 胎土による分類 | 分<br>類<br><br>遺物<br>番号 | 色 調 |     |     |   |   |   |   |   |   |     | 凸<br>帯<br>断<br>面<br>形 | 刷 毛 目 数 |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|---------|------------------------|-----|-----|-----|---|---|---|---|---|---|-----|-----------------------|---------|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|--|
|         |                        | (1) | (2) | (3) |   |   |   |   |   |   | (4) |                       | 6       | 7 | 8 | 9 | 11 | 12 | 13 | 16 | 17 | 20 | 22 |  |
|         |                        | ①   | ②   | ①   | ② | ③ | ④ | ⑤ |   |   |     |                       |         |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 1 - A   | 焼成悪                    | 1   |     | ○   |   |   |   |   |   |   |     |                       |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 2   |     | ○   |   |   |   |   |   |   |     |                       |         | ○ |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 3   |     | ○   |   |   |   |   |   |   |     |                       |         | ○ |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 4   | ○   |     |   |   |   |   |   |   |     |                       |         |   |   |   |    | ○  |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 5   |     | ○   |   |   |   |   |   |   |     |                       |         |   |   |   |    |    | ○  |    |    |    |    |  |
|         |                        | 7   |     |     |   | ○ |   |   |   |   |     | ○                     |         |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 8   |     |     |   | ○ |   |   |   |   | ?   |                       | ○       |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 - A   | 焼成良                    | 25  |     |     |   |   |   |   | ○ |   |     |                       |         |   |   |   | ○  |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 - A   | 焼成良                    | 26  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    | ○  |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 27  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         | ○ |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 28  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    |    |    |    |    | ○  |    |  |
|         |                        | 29  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    |    |    |    | ○  |    |    |  |
|         |                        | 31  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    |    |    |    |    | ○  |    |  |
| 1 - B   | 焼成悪                    | 6   |     |     |   | ○ |   |   |   |   |     |                       | ○       |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 9   |     |     |   | ○ |   |   |   |   |     | ∧                     |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 11  | ○   |     |   |   |   |   |   |   |     |                       |         | ○ |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 12  | ○   |     |   |   |   |   |   |   |     |                       |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         | 焼成良                    | 16  |     |     |   |   |   | ○ |   |   |     |                       |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 18  |     |     | ○ |   |   |   |   |   |     |                       |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 19  |     |     |   |   | ○ |   |   |   |     |                       |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 22  |     |     | ○ |   |   |   |   |   |     | ∧                     |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 3 - B   | 焼成悪                    | 10  |     |     |   | ○ |   |   |   |   |     | ∩                     |         |   |   |   |    | ○  |    |    |    |    |    |  |
|         | 焼成良                    | 13  |     |     |   |   |   |   | ○ |   |     |                       | ○       |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 15  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         | ○ |   |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 20  |     |     |   |   |   |   | ○ |   |     |                       |         |   |   | ○ |    |    |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 23  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    | ○  |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 24  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         |   |   |   |    | ○  |    |    |    |    |    |  |
|         |                        | 30  |     |     |   |   |   |   |   | ○ |     |                       |         | ∩ |   |   | ○  |    |    |    |    |    |    |  |
| 2 - B   | 焼成良                    | 14  |     |     |   |   |   | ○ |   |   |     | ∩                     |         |   | ○ |   |    |    |    |    |    |    |    |  |
| 17      |                        |     |     |     | ○ |   |   |   |   |   |     |                       |         |   |   |   | ○  |    |    |    |    |    |    |  |

開口部の東西に種類別になっていた可能性があることは前に記したとおりである。

出土した埴輪は、胎土が粗製のものと精製のものがあり、さらに、軽石粒を含むものとそうでないものがある。人物埴輪は全て、軽石粒を含む精製埴輪で、刷毛目は細かく数が多い。他の形象埴輪も全て軽石粒を含むが、胎土は粗く、刷毛目数は8、9本と一般的な本数を示す。

出土した埴輪について要約すると、以下のようになる。

1. 色調は、例外的に淡黄色を呈するものもあるが、円筒埴輪および、人物埴輪以外の形象埴輪は、赤褐色を示すのが大半である。人物埴輪は全て、暗茶褐色を示す。

2. 円筒埴輪には、軽石粒を含むものとそうでないものがあり、後者の比率がやや上まわる。

3. 形象埴輪は全て軽石粒を含むが、胎土全体についてみると人物は精製であり、その他の形象埴輪は粗製である。

4. 円筒埴輪および、人物以外の形象埴輪の刷毛目数は8～13本までのものが多く、その中でも特に8、9本のものが多い。

5. 人物埴輪の刷毛目数は8～13本までのものも若干あるが、20本前後のものが圧倒的に多い。

6. 口唇部は滑らかな丸味をもったものと、断面がU字形を示す、中央部の窪んだものがある。

7. 凸帯は、断面がU字形を示す台形のもの、三角形の一边が脹らんだ形を示すもの、三角形を示すものなどがあり、台形と三角形の中間的様相を示すものが多い。

8. 円筒埴輪の基部は幅5cmほどに造られ、その上部に粘土紐を巻き上げている。底径は12cmで小さなつくりである。人物埴輪には基部の造作がみうけられない。

9. 器形全体が知れるものは全く無いが、30によれば、口縁が曲線をもって若干開く程度のものである。

三カ尻No.80古墳出土埴輪の製作技術には2つの系統がみられる。1つは2～5mm大の礫を含み、焼成後の赤褐色化を計ったもので、これが円筒埴輪の主体を成す。いま一つは、軽石粒を混入させているものであり、形象埴輪の全ておよび、円筒埴輪の一部にみられる。後者の場合、円筒埴輪における色調は、淡黄色に近いものとなっている。これらの差が、すなわち工人集団の相違であろうということは、いかにも早計であり、ここでは、それら2種類の技術が混合されている点にこそ意味があるにとらえられるのである。

以上のような結果から、三カ尻No.80古墳は、三カ尻古墳群中の一つであり、7世紀の初頭前後に位置づけられよう。

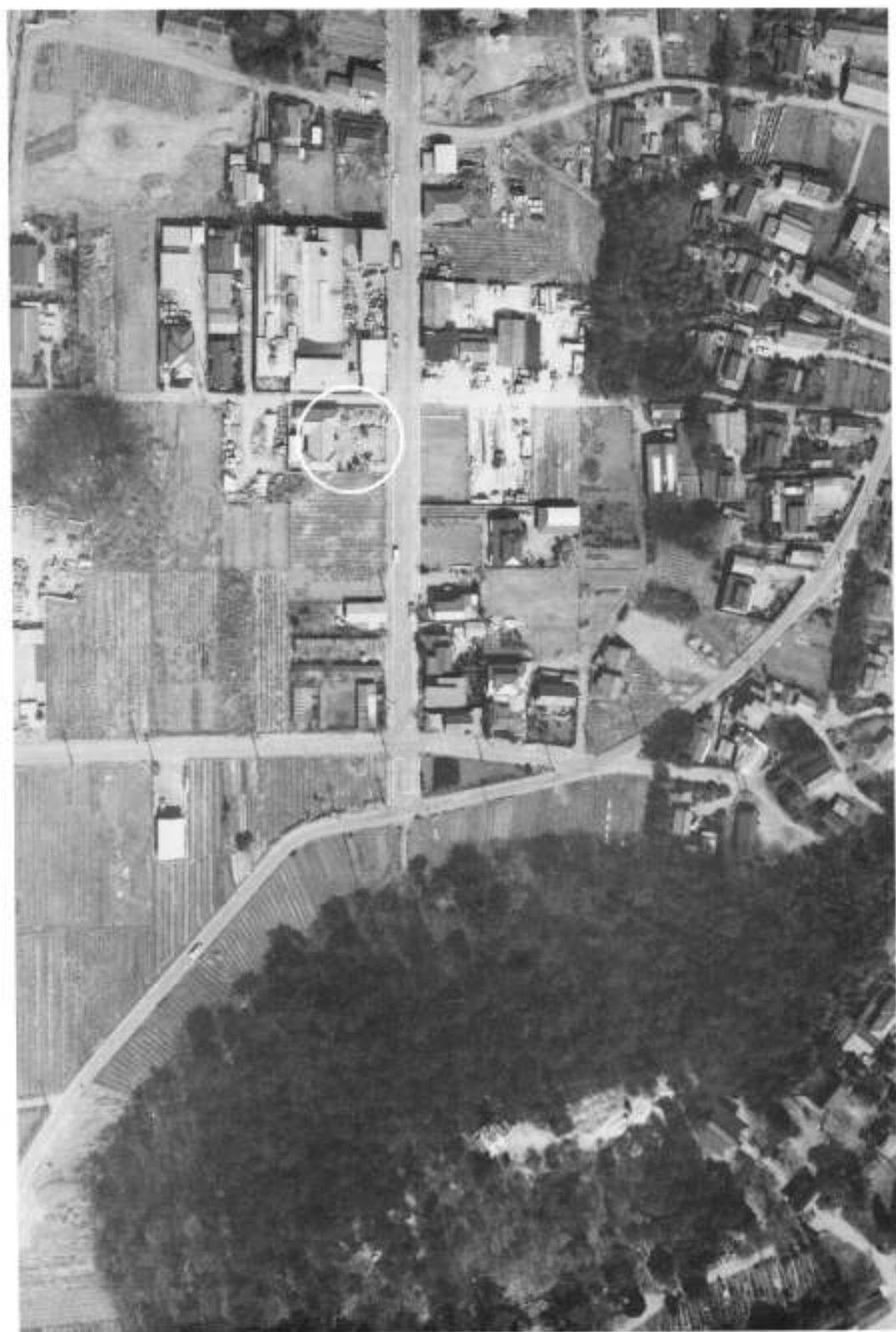


## 参考文献

- 「熊谷市史」前編、1963。
- 埼玉県教育委員会「埼玉県遺跡地名表」、1962。
- 埼玉県教育委員会「鹿島古墳群」、1972。
- 黒田古墳群発掘調査会「黒田古墳群」、1975。
- 埼玉県大里郡花園村「花園村史」、1978。
- 塩野 博「銅鈴の出土した川本村月見古墳群」埼玉地域研究会1965年研究発表レジュメ。
- 埼玉県教育委員会「埼玉県埋蔵文化財発掘調査要覧」（昭和26年～昭和40年）、1973。
- 貞未堯司「熊谷市瀬戸山遺跡の調査」 第6回遺跡発掘調査報告会、1973。
- 東京大学文学部考古学研究室「我孫子古墳群」、1969。
- 塩野 博「古墳の外部施設一特に小規模古墳の周堀一」 埼玉考古第5号、1967。



1. 航空写真



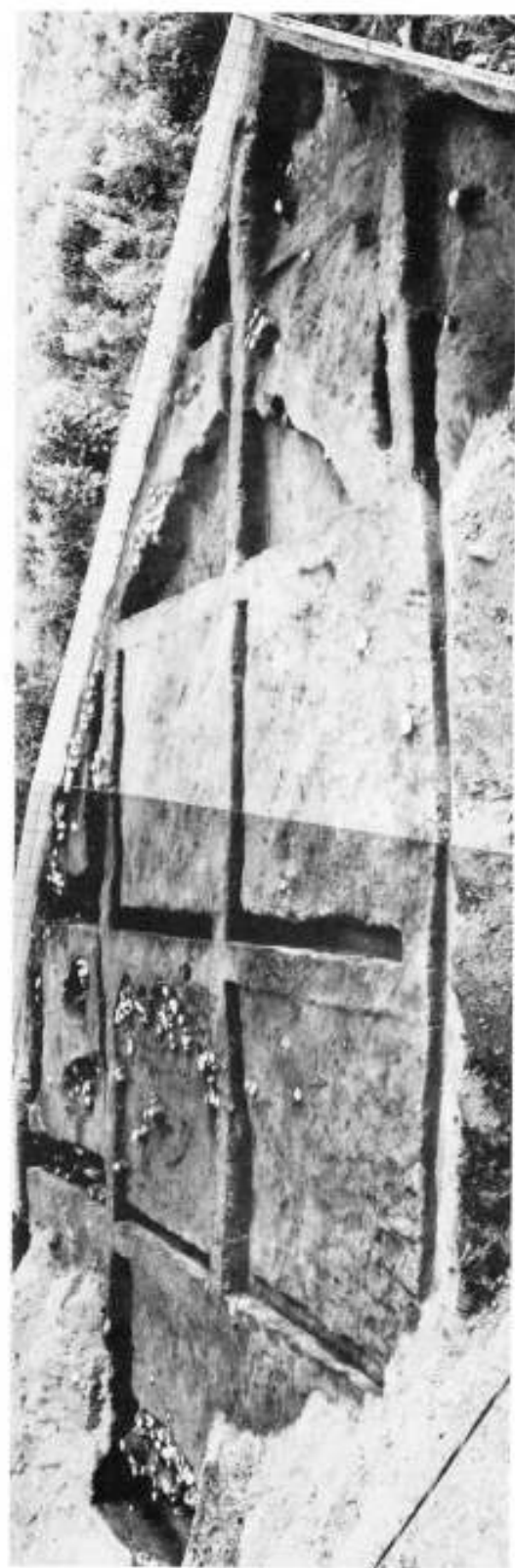
2. 航 空 写 真



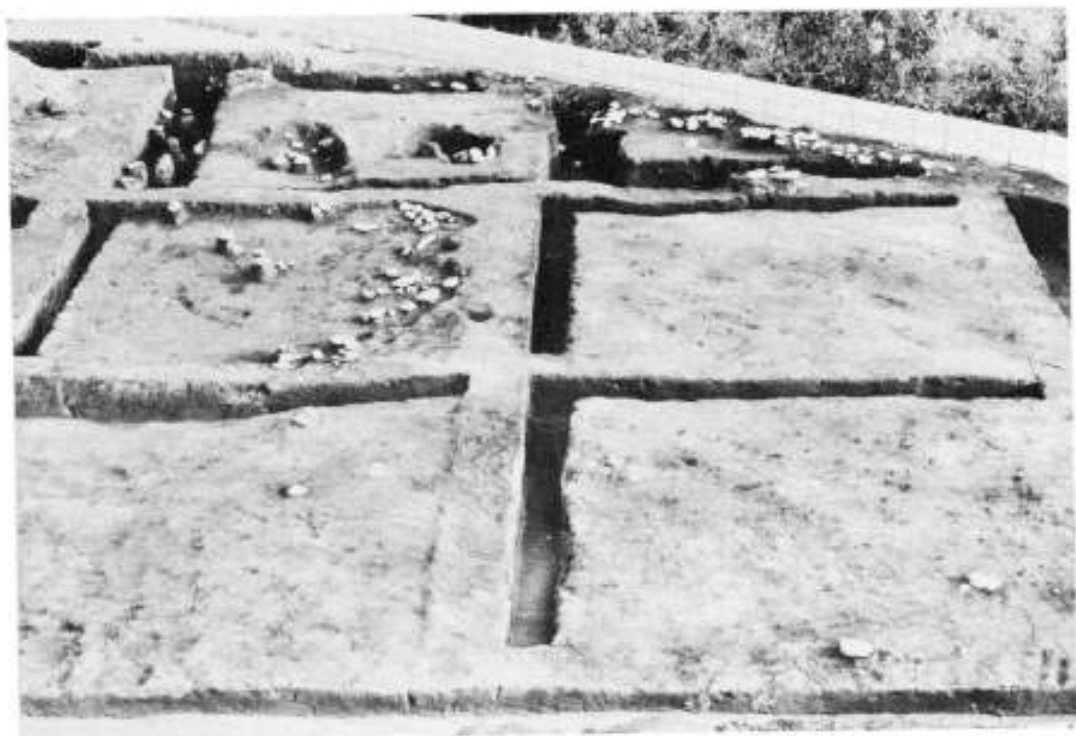
3. 遺跡近景



4. 発掘風景



5. 遺跡全景

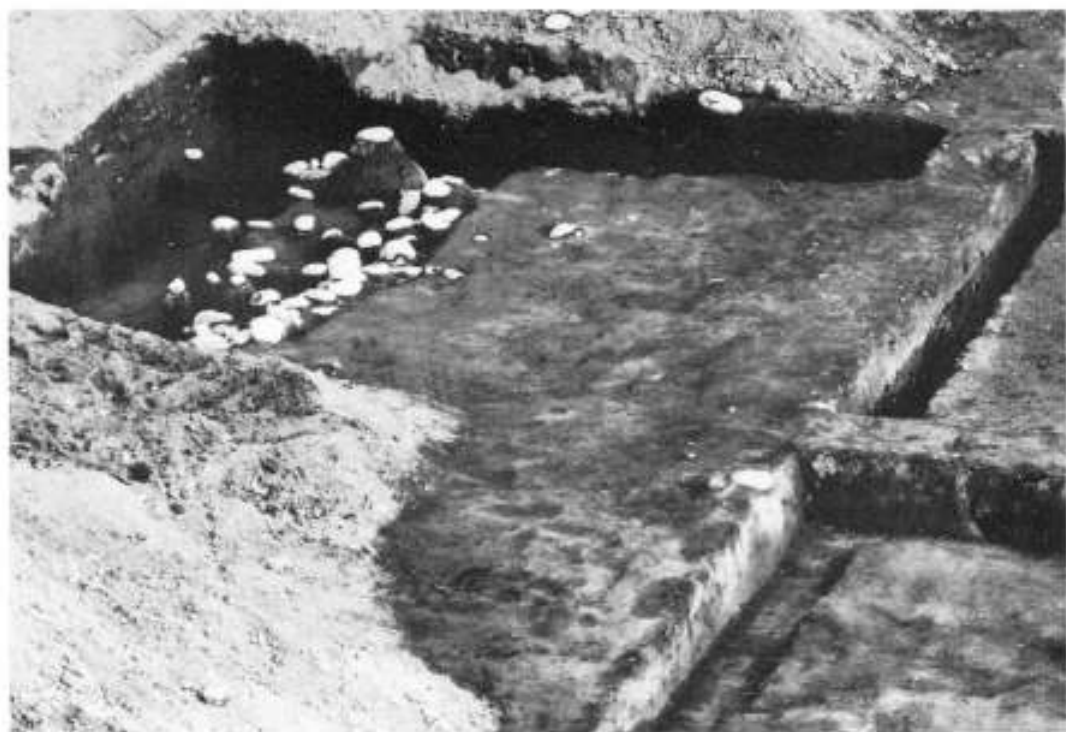


6. 古墳中央部



7. 礎 床





8. 古墳東側周堀



9. 古墳東側周堀拡大



10. 井 石



11. 古墳東南側周堀





12. 古墳西側周堀



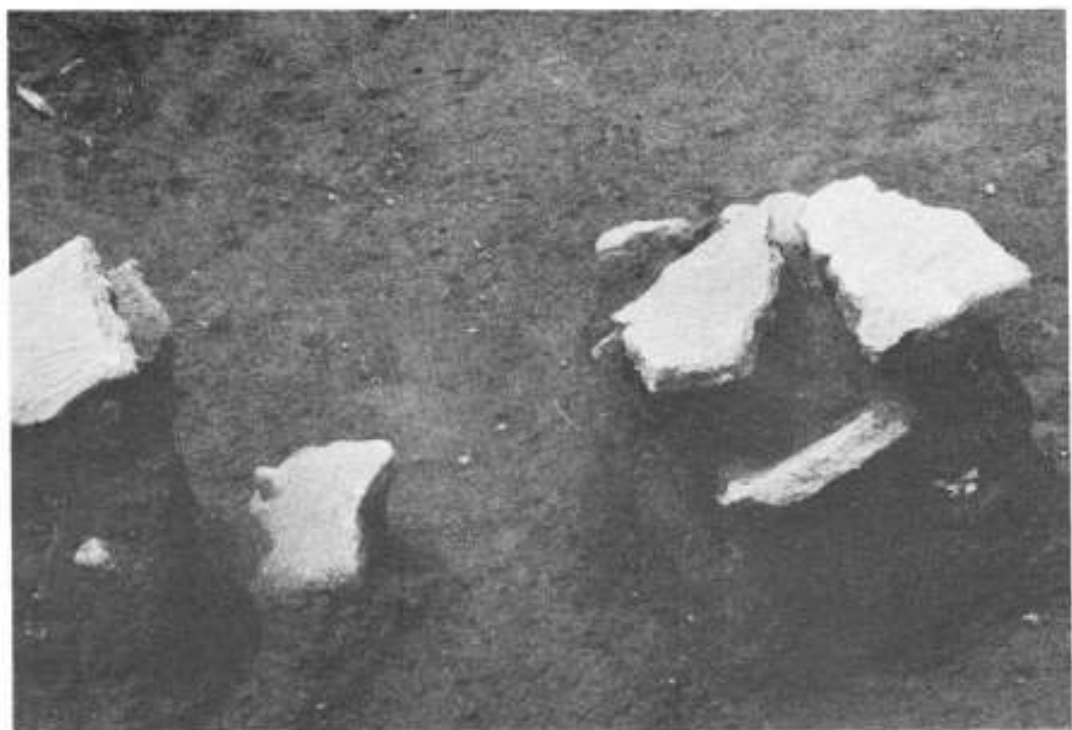
13. 古墳西側周堀底面



14. 古墳西側周堀



15. 古墳西側周堀



16. 埴輪出土状況 (1)



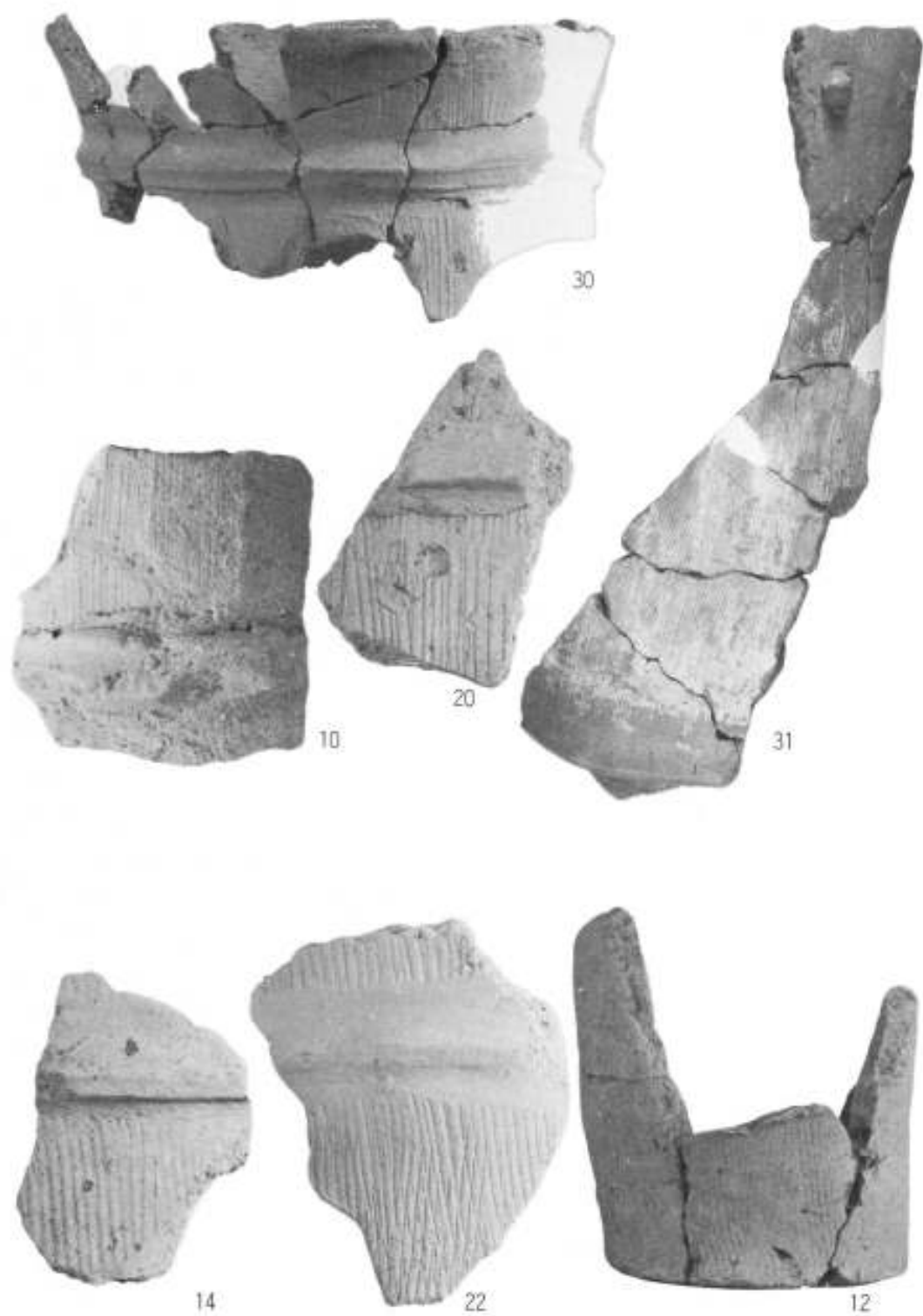
17. 埴輪出土状況 (2)



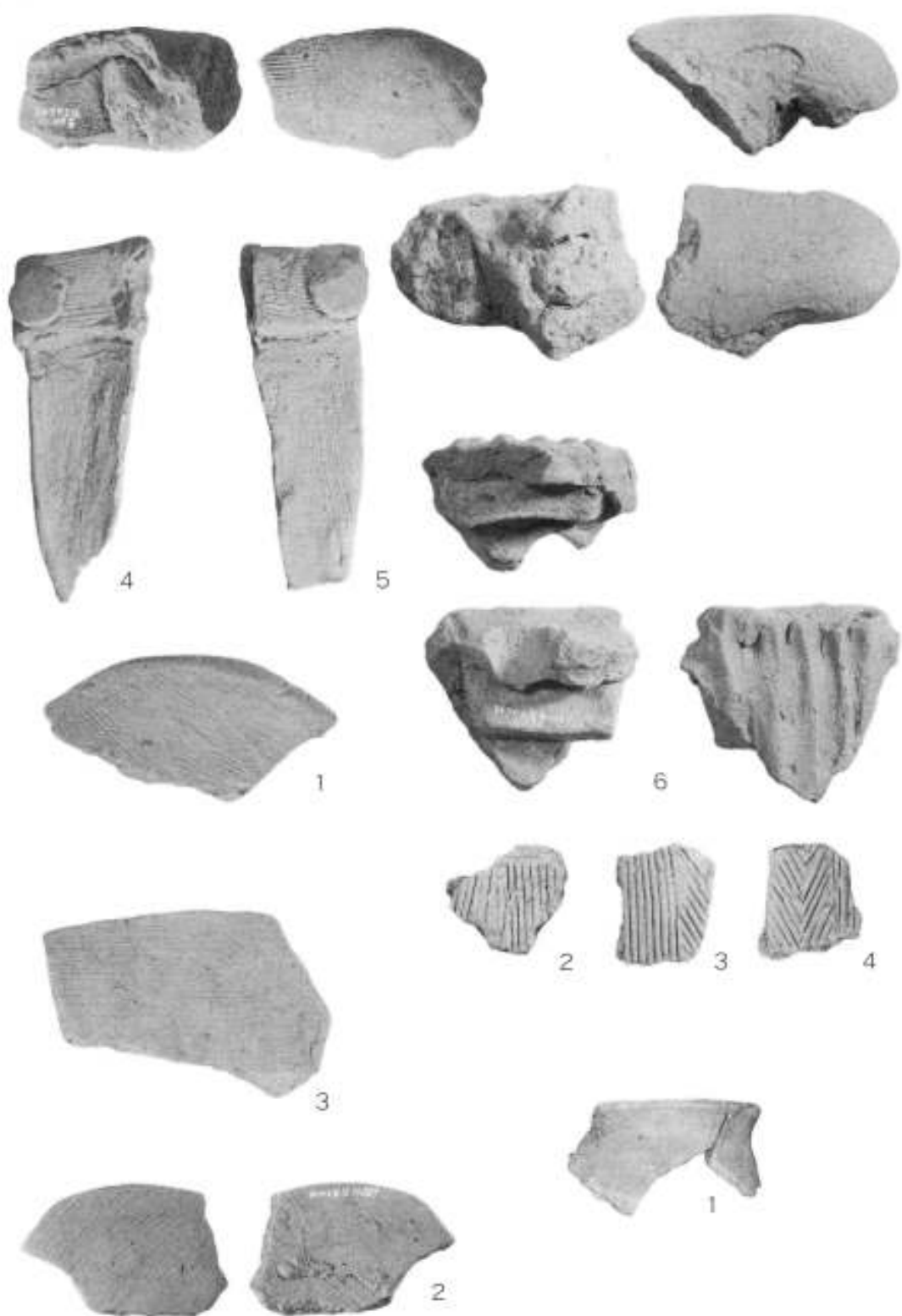
18. 埴輪出土状況 (3)



19. 埴輪出土状況 (4)



20. 出土埴輪



21. 出土地輪・繩文式土器・土師器